

英国における農業継承と新規参入(その1)

はじめに

我が国では農業経営者の高齢化と後継者難が深刻化していると言われます。2000年農業センサスによれば、農業就業人口の平均年齢は61.1歳であり、「後継者がいる」割合は70.4%となっています。次世代の農業を担う人材を農業後継者もしくは新規参入者としていかに確保するかが課題といえます。

一方、諸外国における「後継者問題」や「新規参入問題」は我が国にはあまり紹介されていないようです。そこで、当欄では、英国における後継者問題、新規参入問題について、その現状を3回にわたってご紹介します。

新規就農者の減少と高齢化の進展

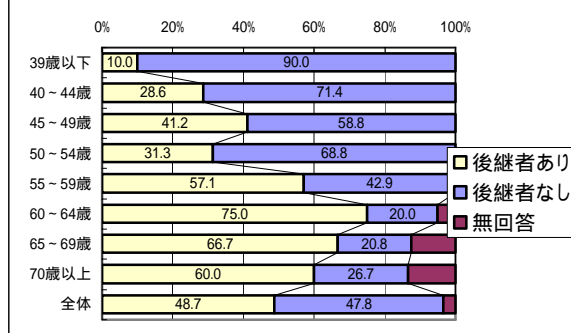
2003年2月18日のイギリスの全国紙Daily Telegraphに「もはや誰も農業者になりたがらない」というタイトルの記事が掲載されました。農業カレッジへの応募者数が1995年の14,741人から2001年の10,037人へと約32%減少しており、新入生が1人しかいない農業カレッジも出てきている、というものです。若者が農業への興味を失っている要因としては、高額の授業料の他に、農業の収益の低さおよびイメージの悪さが挙げられています。また、農業経営者の高齢化の進行は以前から指摘されており、農業経営者に占める65歳以上の割合は、EUの統計によれば2000年に24.9%となっています。

英国酪農の後継者確保状況

英国酪農の後継者確保状況についてはプリマス大学のエリントン教授のグループによる実態調査が興味深い結果を示しています。

図1は、酪農経営の後継者確保率について経営者の年齢別に見たものですが、年齢に伴って後継者確保率も上がりますが、65歳を過ぎると確保率が下がる傾向が出ています。全体の確保率は48.7%であり、わが国と比べ高いわけではありません。

図1 英国酪農経営者の年齢別後継者の有無
(出所:英国プリマス大学FARMTRANSFERS)



農業後継者の農業従事状況

我が国では、後継者が他産業に一定期間従事した後に就農する、いわゆる「Uターン」も多く見られますが、先のエリントン調査によれば、英国では「新規学卒就農」が一般的です。その要因としては、農業経営の規模が大きく2人以上の専従者を抱える余力があること、若年層の失業率が高く他産業への就職が容易でないこと、などが挙げられます。

「ファーマーズ・ボーイ」問題

英国では、農業経営者が引退を先延ばしにする結果、農業専従の後継者が経営権を委譲されないままになるという事例が多く見られます。これは「ファーマーズ・ボーイ」問題と呼ばれ、英国農業における後継者問題の代名詞となっています。先のエリントン調査では、全体の32.3%の後継者が「ファーマーズ・ボーイ」に該当するという結果が出ています。英国では、後継者の農業専従が一般的であること、我が国の農業者年金のような世代交代を促すような政策がないことなどが主な要因として考えられます。

以上のように、英国には我が国とは違った形での「後継者問題」があり、その解決策が模索されている状況です。

(つづく)

英国プリマス大学客員研究員

日本学術振興会特別研究員 内山智裕